



1年4組1班による関市役所観光課フィールドワークの報告をします

内 容：現在、関市で行っている海外戦略について。

日 時：2018 年 8 月 15 日（水）

訪問先：関市役所観光課

参加者：荒金草介 美濃羽亮佑 後藤聖弥 田原秀英 間宮三紗乃 稲川桃香 河合祐香

岐阜県に来る外国人観光客は増加傾向にあります。現在岐阜県では富山県、長野県と合同で台湾での現地セールスを行っており、関市を含めた大きな単位で協力してインバウンド増加に努めています。特に興味深いと思ったのはセールス対象が台湾である理由です。訪日台湾人はリピーター率が高く、訪問先も都市から地方へと広がりを見せている。という理由のほかに、親日であることやマナーが良いということまで視野に入れていることに驚きました。また、関市単独でも「ファミトリップ」と呼ばれる現地の著名人を関市に招き、その影響力を利用する作戦があると知り、私たちの提案の大きな助けとなりました。さらに、外国人観光客の受け入れのため関市では岐阜県で初めて「イベント民泊」が実施されたということを知りました。これはイベントの開催時に限って営業許可なしで宿泊サービスを行えるようにする制度で、ホストも少しずつ増えています。まだ成長途中の取り組みですが、規模が拡大するにつれて関市の観光収入が確実に伸びる画期的で面白い仕組みです。これもまた、私たちの提案にとって良い刺激になりました。



感想

私たちは岐阜県のインバウンド増加をテーマに掲げ研究活動を行っています。今回のフィールドワークもその一環です。仕事としてインバウンド増加に取り組む方々からより具体的かつ効果的な宣伝方法について聞くことができました。

1年4組2班による 高山市へのフィールドワークの報告をします

◎高山市を訪問して、外国人観光客ひきつける工夫について学びました！

日時：2018年8月9日（木） 7:00～18:30

訪問先：高山市役所 海外戦略課

内容：外国人観光客の方のために高山市が行っている工夫について

参加者：佐藤稜和 武井風磨 藤本亮太 森本歩夢 池田暖 須田莉緒香 福田絢菜

◎海外戦略課の方に聞きました！ ～観光客をひきつける工夫～

どこの国の方が観光に来られても言語について困らないように看板には何か国もの表記がしてあります。右の図は「高山市の郵便局へようこそ」という意味です。誰でも読むことができるように5か国語を使って表記してあります。

パンフレットにも工夫が見られます。パンフレットを一目見て高山に行ってみたいと思えたり興味を引いたりできるように作られています。例えば、フランスでは滅多に雪が降らないのでフランス語のパンフレットの表紙は高山に雪が積もった時の写真になっています。また、スペインの人は文字を読むことが好きな人が多いのでスペイン語のパンフレットはほかの国のパンフレットと比べて文字が多くなっています。こういった細かい工夫が外国人観光客を増やす工夫になっています。



◎私たちの感想 ～もっとたくさんの外国人の方に岐阜を知ってもらうために～

私たちはどうしたらもっとたくさんの外国人観光客の方に岐阜県を訪れてもらえるかということをテーマに掲げ、研究活動を行っています。岐阜県の中でも有名な高山市でインタビューをしたことによってとても勉強になりました。もっと多くの外国人観光客に岐阜を訪れてもらうためにインタビューをして聞いたことをもとに、自分たちにできることはないか考えてパンフレットを作成するなどしていきたいと思えます。



1年4組3班による小坂酒造場フィールドワークの報告をします

長良川の伏流水を使った地酒について学びました。

日時:2018年8月22日(水)10:00~11:30

訪問先:小坂酒造場(美濃市相生町)

内容:長良川の伏流水を使った地酒について

参加者:安藤雪葉 稲熊瑛一朗 今野美紅 亀山貴史 高井和哉 原章太 松野心香

さんやほうとは



「さんやほう」とは私たちが取材させていただいた小坂酒造場さんで作っている地酒です。この「さんやほう」の材料に使われているお米は、美濃市の特産米である「みのにしき」が使われており、この「みのにしき」は田植えから収穫まで無農薬で育てられています。また使用する水は、長良川の字伏流水を使っています。このように素材にこだわっていることや人々の好みに寄り添っていることが地酒のよさであるということがわかりました。

～今回の取材で学んだこと～

私たちは岐阜に地酒を楽しんでもらうために、岐阜の地酒を使ってスイーツを作ることを提案しました。スイーツにするこのことで瓶ではなくなるので軽くなり持ち運びが楽になると思います。酒税がかからなくなることは購買意欲にも繋がります。また未成年にも楽しめるようになり、家族連れの旅行者にも手に取ってもらえるようになると思います。小坂酒造店の方が言うには今地酒は味の多様化が進み女性人気が出てきているようです。このように地酒を地酒として売るのでなくどのような年齢層の方々にもてにってもらえるような商品は今回提案したスイーツだけでなくほかにもたくさんあると思います。この地特有のものを友好的に使ってインバウンドにつなげていくことはとても難しいということを感じました。考え方ひとつで誰にでも楽しめる商品になるということが分かったので普段の生活の中でも考え方というものを大切にしていきたいと思いました。



小坂酒造店

【引用】

<http://www.kuramoto-kosaka.com/company/>

1年4組4班による歴史民俗資料館フィールドワークの報告をします

関ヶ原の歴史について学びました

日時 : 2018年8月18日(土) 9:00~14:00

訪問先 : 関ヶ原歴史民俗資料館(不破郡関ヶ原町)

内容 : 関ヶ原の歴史について

参加者 : 兼松 星奈 長尾 美和 渡辺 真子
 木村 俊介 長瀬 右京 松島 由季 美濃羽 健成

◇関ヶ原の歴史について ~関ヶ原の戦い~



関ヶ原では関ヶ原の戦いが起こる前に672年に壬申の乱があり大海人皇子(後の天武天皇)軍の重要な拠点になった。

また、歴史資料館では関ヶ原の戦いをもした、模型や、原寸大の甲冑体験などさまざまな体験ができます。現在は、関ヶ原の戦いが含まれている世界三大古戦といわれている、アメリカのゲティスバーグの戦い、ベルギーの

ワートルローの戦いの戦場展もやっています。

歴史民俗資料館では日本語の他に英語、フランス語のパンフレットを配っており一部の外国人観光客が来ても対応できるようになっています。



◇感想

歴史民俗資料館の周りには飲食店も多数あり例えば、そばのコザン、喫茶店のホンジンなど軽食から腹一杯に満足できるようになっています。さらに現在、道路の工事で悪かった交通の便をよくしようとしています。

私たちは、インバウンドを岐阜県へという目標で関ヶ原のツアーを作るために、関ヶ原の歴史についての研究活動をおこなっています。特に注目して見て欲しいのは、戦いで実際に使われた銃や甲冑です。それらは、特徴的であり人生で一度は見ておきたい物だと思いました。現地で今の現状や実際に見て学ぶことにより、より深く関ヶ原の歴史について学ぶことができました。まずは、自分の目で見えて知ることが大切です。今後は今回学んだ関ヶ原の歴史を多くの人に知ってもらえるように頑張りたいです。

1年4組5班による 義春刃物株式会社 のフィールドワークの報告をします

◆ 義春刃物様に訪問、シャインカービングでインバウンドを呼び込むことを考えました！

日時：2018年8月10日（金）午後1:00～4:00

訪問先：義春刃物株式会社（関市旭ヶ丘）

内容：シャインカービングとはどんなものか、どうすれば関市にインバウンドが訪れるか。

参加者：塚本健太郎 末武正剛 藤吉大輝 羽田野智子 前田結衣 山内茉奈

◆ シャインカービングとワークショップ 関 SA で開催決定！



シャインカービングとは、PVC シートにカラーフィルムを貼り付け、シートに沿って彫刻刀で彫ると透明な部分からカラーフィルムの色があらわれる、という新感覚の彫刻アートです。

今回、僕たちの班は、このシャインカービングを主軸にインバウンドを呼び込むことを考えることにしました。

シャインカービングは従来の彫刻アートと違い、非常にとりかかりやすいという利点があります。普通であれば、大きな機械や広い作業場が必要になりそうな所ですが、シャインカービングは机に乗るサイズの作業台と2種の彫刻刀さえあれば取り組むことができます。



外国人観光客がいそうな関 SA でワークショップを開催することにし、実際にシャインカービングが通用するかどうかを検証することにしました。

結果としては、丸一日開催して、外国人の数自体が10人以下だったこと、シャインカービングに興味を持っていただいたとしても、「時間がない」と断られることが多かったことです。

◆ 私たちの感想 ～シャインカービングをどう活かすか～

今日の話し合いで、シャインカービングの成り立ちや、どんなものなのかというお話を伺いました。まだまだ新しいコンテンツであることや、東京でのワークショップの結果が良かったことなどから、ワークショップの成功はシャインカービングをどう活かすかが大事になると感じました。

今回は、1年4組6班による岐阜バス美濃営業所フィールドワークの報告をします。

◇ 岐阜バス美濃営業所を訪問し、外国人観光客の特徴や、バスツアーの工夫を聞いてきました。

日時:2018年8月12日(日) 12:00~16:00

訪問先:岐阜バス美濃営業所(美濃市生櫛)

内容:外国人向けのバスの工夫について、どうすれば外国人観光客が多く訪れるか

参加者:稲川温 國枝彩加 神木大輔 野呂祥人 藤澤晃 和田茉里奈

◆ 外国人観光客が快適に乗ることができるバスツアーはどのようなバスか。

岐阜県への外国人観光客のうちほとんどが、アジア(韓国、台湾、中国)からの観光客だということ、さらにその観光客の多くが観光バスを利用するという事実を知りました。そこで私たちは外国人観光客が多く利用する、「岐阜バス美濃営業所」を訪れました。営業所で話を聞いてくると、いくつかの問題点、あるいは外国人観光客の特徴などを知ることができました。以下である



①観光客が忘れものをする。②言語の壁がある

③観光客のマナーの悪さ

これらをもとに、次の工夫点を考え、営業所の方に提案してきました。

①他言語で表記されたパンフレットの設置

②他言語を話せるスタッフを増やす

営業所の方たちは私たちの提案した考えを取り入れつつこれからの営業をしていくそうです。

◆ 提案と感想 ~どうすればさらにインバウンドを呼び込めるか~

工夫点を考え提案したことを実現するのは、難しいと思いました。この先外国人観光客が増えることが予想されるので、少しずつ外国人観光客用のサービスの充実あるいは、スタッフの対応を強化が必要だと考えました。